地域を知る、今をつなぐ、未来が変わる 地域のコーディネーター役

～ 集落支援員　佐々木正道さん・力武文雄さん ～

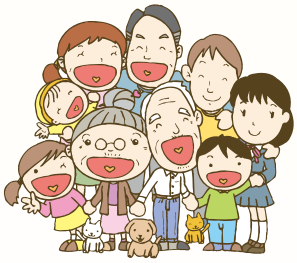
今年の１月から３月まで、畑ヶ中区と天神町区で「集落点検」という話し合いイベントが開催されました。その背景で、集落との話し合いから集落点検実施まで、表にあまり見えないところで集落を分析・サポートし、この集落点検事業において欠かせない存在が「集落支援員」です。

昨年の４月に町長から委嘱された佐々木正道さん（千ヶ日向区）、今年の６月に町長より委嘱された力武文雄さん（中央区）。今、集落の現状分析、意見交換会や集落点検に精力的に取り組んでいます。

集落支援員制度って知ってる？

当町は、住民が楽しく安心して暮らし続けることができるまちを目指し、住民が郷土愛を育み、集落が自主的に課題を解決できる体制をつくるため、「集落支援員」という外部人材を任用しています。

この制度は、町長から委嘱された集落支援員が、町と連携し、集落の巡回や状況把握などを実施し、集落の維持や活性化することを目的としています。総務省からの財政支援があり、支援員の活動費として活用しています。



どんな方が支援員になるの？

地域の実情に詳しく、地域づくりへの関心が高い方です。

佐々木さんは、２年前に区長を２期４年間務め、任期中は区長会長を経験されました。防災訓練ではＤＩＧ（災害図上訓練）をいち早く取り入れ、区民同士が話し合うことで集落内のつながりを深める取り組みを実践されてきた方です。

力武さんは、７年前にアンテナさくほの代表として佐久穂町へ来られ、現在も地域ブランディング活動を中心にヒト、モノ、コトをつなげ、佐久穂の魅力を引き出し、地域活性化に取り組んでいる方です。

集落支援員としてどんな思いが生まれ、どんな取り組みをしていきたいかインタビューしました。

佐々木　「少子高齢化に伴い、あちこち『ほころび』の見え始めた集落、今ならまだ変えられるとの思いで受けました。日常生活の中に溶け込んだ課題に気づき、小さなことでも、皆で解決できる活力を引き出せるような取り組みをしていきたいと思います。」

力武　「私は区や常会の役についた経験がほとんどありません。一方、長く広告畑で、商品や会社、最近では町を対象としたブランディング業務に取組んできました。今度も『集落ブランディング』といった方法でお役に立てればと思います。」

どんな活動をしているの？

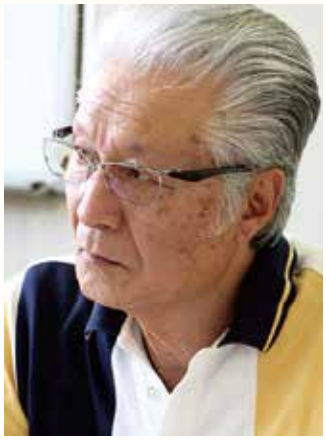
昨年に引き続き、区との意見交換会を実施しています。「集落の代表の方を対象としたアンケート調査や人口数値を基に、予め課題を把握して臨みます。でも、当日は調査や数字には表れない生のご意見を多くお聞かせいただくよう心がけています。」と言う力武さん。地域の皆さんと一緒に悩む場となっています。この事業を通して、他の集落との共通点、参考になる取り組みなどを整理し、各集落へ情報提供していく予定です。

佐々木さんは共通点として「形のない課題のため、先に『無理・変わらない』など『結果』を心配してしまう。」という傾向があるのではと考えています。

下半期には、集落点検（ワークショップ：以下「WS」）実施に向けて、準備を進めていきます。意見交換会や集落点検（WS）を実施することで、見えてくる課題、解決策や共通点について、昨年経験したお二人に聞いてみました。

力武　「集落は、道路や水道のように私たちの生活の基盤だと思います。人口減少や高齢化でどの集落も多かれ少なかれ弱体化が進み、補修や維持が必要な時期に来ています。でも、以前からの様々な努力で活気を維持している集落も多くあります。」

佐々木　「地域では、個別の課題や問題点が列記されますが、そこに暮らしている『自分』との関わりが希薄に思えます。また、課題解決の『担い手が不足している』と思い込んでいる傾向があるように思えます。地域の中で、まず課題を投げかけてみること、自分は『こうなれば良いな』を話し合ってみることが大切です。」



ここで、昨年度集落点検（WS）を実施した「畑ヶ中区」のその後の活動を紹介します。

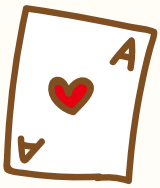
畑ヶ中区では、町と一緒に行った集落点検（WS）の経験を活かし、自分たちの手で少しでも住み良い集落になったらとの思いで「集まれ！畑ヶ中」という会が立ち上がりました。7月から月1回開催を目標に、畑ヶ中集落センターで、子どもからお年寄りまでが気軽に楽しめる企画を実施しています。会代表の石井さんは「負担感がなく、自然な雰囲気の中で皆さんに楽しんでもらい、この場所（集落センター）が良く、自由に人が来られるようにしていきたい。」と話をしてくれました。

記念すべき第1回は、子どもたちが集まれるイベントなどを増やしていくこと、子どもたちのためにという共通の思いから、「昔の遊び・手作りの遊びを復活させよう」をテーマにして、楽しくグループトークを

行ったそうです。その結果が8月の第2回につながっています。

8月の「集まれ！畑ヶ中」に集落支援員と町職員で参加させていただきました。まずは、畑ヶ中区独自の踊り「畑ヶ中音頭」をみんなで歌い、輪になって踊りました。「畑ヶ中音頭」を復活・継承しようという想いもこの会にはあります。真剣な眼差しと笑顔で歌と踊りを楽しみました。

折り紙とトランプはグループに分かれて遊びました。折り紙は得意な参加者から女性も男性も教わる姿や、みんなで共通の作品をつくりたいねと会話も弾み、トランプは、どこのグループも手始めに「ばばぬき」からスタートし、その後「七並べ」や「じじぬき」へ。面白かったのは、「ばばぬき」一つとっても、グループでルールが違うこと。一つのグループはこだわりの「ばばぬき」を時間一杯楽しみました。



その後、全員参加で行う「スイカ割り（新聞紙製）」と「まわせまわせ（お手玉を使って）」を行い、たくさんの笑顔と笑い声がセンターの中に響き渡りました。

「今後続くかが心配ではあるが、まず始めたことで皆さんも集まり開催できているので、毎月1回位ずつ長く続くように頑張っていきたい。」と言う石井さん。

主催側も参加側も無理のない範囲で、いかに楽しいことができるか。それに伴い、畑ヶ中区での生活がどのように変化していくのか。今後の「集まれ！畑ヶ中」から目が離せません。

これからどんな取り組みを進めるの？

「集落内においては、年長者に加え若者や女性が一緒に集落の今や将来について語る機会を作ること。集落相互では、機能や活気を維持するために培われてきた『集落の知恵』を共有すること。まずやるべき働きかけはこれだと思います。」と言う力武さん。

これからも、各集落の若者からお年寄りまで様々な方が参加できる意見交換会や集落点検（WS）を実施していきます。地域の皆さんと一緒に課題や活性化策について話し合い「『こうなってほしいがムリ』と思う気持ちをほぐし、身近な課題を洗い出し、『楽しく変えていける』ような、そこに住む人の自信となる支援に心がけていきたい」と佐々木さんは言う。

この事業は、地道な取り組みです。全ての集落に効く特効薬もありません。住民が楽しく安心して暮らし続けることができるまちを目指し、集落の皆さんと一緒に未来を描き、課題を解決するためのアクションへつなぐことができるよう取り組んでいきます。